

令和5年度 事後評価シート

【事務事業シート（政策的経費）】

1	当初	事項	スクールカウンセラー活用事業費							予算主管課	義務教育課
		事業概要	臨床心理に関して高度で専門的な知識経験を有するスクールカウンセラーを中学校に配置するとともに、県内全ての小中学校に派遣できる体制を整え、教育相談体制の充実を図る。							始期	H13
	K P I	児童生徒及び教職員、保護者等が抱える問題が好転した相談件数の割合（スクールカウンセラー）									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	24.4 %	目標値	26 %	目標値	26 %	目標値	26 %	目標値	26 %
				実績値	22.7 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	87.31 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	76,429 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
			決算額	75,090 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>各学校で、学校だよりやホームページ等にスクールカウンセラーの訪問日を伝えるなど周知を徹底することで、相談件数は前年度を上回ったものの、全体の相談内容のうち、最大の27.1%を占める不登校について、好転割合が19.9%と低かったため、目標達成には至らなかった。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度の目標達成率は、想定よりも低調であったものの、87%を超えており、相談件数が4年度に比べて約8%増加するなど、成果は着実に表れている。スクールカウンセラー連絡協議会において、学校がスクールカウンセラーや他の関係機関と連携を図るよう周知することで、成果の更なる向上が期待できることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>								
2	当初	事項	スクールソーシャルワーカー活用事業費							予算主管課	義務教育課
		事業概要	いじめ、不登校、暴力行為等の課題解決への対応を図るため、社会福祉等の知識・技術を有するスクールソーシャルワーカー（SSW）、スーパーバイザー（SV）を配置する。							始期	H20
	K P I	児童生徒の抱える問題が解決、あるいは好転した割合（スクールソーシャルワーカー）									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	15.6 %	目標値	20 %	目標値	20 %	目標値	20 %	目標値	20 %
				実績値	27.2 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	136.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	10,679 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
			決算額	9,326 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度のKPIの実績は想定以上の成果が出ている。今後も事業を継続し、教育相談体制の充実を図ることにより、6年度以降もKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

3	当初	事項	ハートなんでも相談員設置事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	児童生徒や保護者が気軽に相談できる体制の充実を図るため、学校現場に相談員を配置する。								始期	H16
										終期	
	K P I	児童生徒及び教職員、保護者等が抱える問題が好転した相談件数の割合（ハートなんでも相談員）									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R 4 年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	34.2 %	目標値	36 %	目標値	36 %	目標値	36 %	目標値	36 %
				実績値	38.8 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	107.78 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	8,625 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			8,300 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
5年度	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は想定以上の成果が出ている。今後も事業を継続し、教育相談体制の充実を図ることにより、6年度以降もKPIは達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

4	当初	事項	不登校児童生徒等支援事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	不登校児童生徒への多様で適切な教育機会を確保するため、学校外での学びに対する経済的支援やフリースクールとの連携推進等に加え、新たにメタバース（仮想空間）を活用し、社会的自立に向けた支援に取り組む。								始期	R2
										終期	
	K P I	不登校児童生徒に対して、適切な教育機会を確保している割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R 3 年度	時点・期間	R 4 年度	時点・期間	R 5 年度	時点・期間	R 6 年度	時点・期間	R 7 年度
		現状値	53.1 %	目標値	63.7 %	目標値	63.7 %	目標値	63.7 %	目標値	63.7 %
				実績値	49.5 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	77.71 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	9,465 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			7,259 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。） KPIの5年度実績値については、10月頃に公表される調査結果で判明する予定であるが、不登校児童生徒数については、全国と同様に4年度まで10年連続で増加しており、今後も増えていくことが想定される。目標値の達成・未達成に関わらず、個々の児童生徒に応じた支援の充実や関係機関との連携を一層強化する必要がある。									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
5年度	見直し方向性	改善	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 全国と同様に本県においても不登校児童生徒は増加傾向にあることを踏まえ、個々の児童生徒の状況に応じた支援を更に充実させるために、今後も引き続き関係機関と緊密に連携し、個々の児童生徒が必要とする支援の充実と多様な学びの場の確保に取り組む。また、10月頃に公表される調査結果を踏まえた上で、7年度において、更なる改善が図れるよう対策を検討する。								